



がなかったからだと思います。それで企業に就職することに決め、それから本格的に自分に合った職業を探すようになりました。

まずいろいろな企業に資料請求のハガキを出したり、家に届く分厚い資料の興味のあるところに目を通したり、ホームページのある企業は大学のパソコンで見えるようにしていました。企業研究を通して、どんな職業、職種があるかを知り

(知らない職業がこんなにあるのかと驚きました)、また自分に合った職業や職種は何かを探しました。そうしているうちに、自分が興味を持つ職業や企業にだんだん傾向が出てきて、どんな職業に就きたいか絞り込むことができました。

現在、勤めている会社は、主にパソコンを使って、取扱説明書などの出版物の編集をしています。学生時代はほとんど触ることのなかったパソコンと毎日向き合っている仕事をしています。

### 私の就職活動

私が就職活動を始めたのは、三回生の秋ぐらいからでしたが、その時点ではまだ自分が何をしたいのかわからない状態でした。はじめは、公務員試験の勉強をしていましたが、二ヶ月ぐらいでやめてしまいました。それは、きっと自分の中になりたいという気持ち

コンを使った編集の仕事(DTP関係)に就きたいと思ったので、パソコン教室にも三月ぐらいから通い始めました。いずれ仕事に就いたらパソコンを使うことになる

のだから、学生のうちに少しでも勉強できたという気持ちと、就職にも有利になるだろうという気持ちからです。やってみると実際に楽しかったので、自分に合った仕事だと感じるようになりました。

就職活動中に、自己PRのために自己分析というのをしましたが、これは自分を見つめ直すよいきっかけになりました。自分の良いところ、悪いところ、いろいろ挙げていくうちに自分という人間が改めてわかったような気がします。

就職活動は、大変疲れるものではありますが、様々な会社の中を覗けるいいチャンスでもあります。私もいい経験ができたと思っています。八月に内定をもらうまで、あせることは何度もありましたが、最後まで諦めないでよかったと思っています。

### 社会人になって

入社したての頃は、何がなんだかわからないまま仕事をしていました。言われたことをやるだけで、自分が何をしている

のかよくわからないまま、ただ仕事をやり遂げるので精一杯でした。自分のしていることが不安でたまらなくて、余裕のない状態でした。

一年、二年経ち、先輩も入社し、だいぶ仕事にも慣れてきました。まだまだわからないことも多いのですが、仕事の要領も少しずつ身に付いてきました。しかし、仕事に慣れてきたのは良いのですが、最近では逆に、仕事に対して緊張感がなくなってきた感じがしています。一度、初心にかえって仕事に取り組まなければ・・・。

イラストを描く仕事や、自分の得意な仕事などは、やはりやっていて楽しいです。ただ、当たり前のことですが、楽しい仕事ばかりではないのが現実で、疲れることもあります。帰りの遅い日が続いたり休日出勤があったりすると、やはり疲れがたまってきて、さすがの私もストレスを感じるときがあります。そういうときは、休日に出かけたり、遊びに行くことなどを励みに頑張るようにしています。

今、学生のみなさんは、教師を目指している人もそうでない人も、大変だとは思いますが、自分に合った道を選び、それに向かって頑張りたいと思います。





「お父さん！お仕事したでええっ？もしや…。「亮輔！パソコンのデータ、消したな！」と三歳になった息子と格闘している今日この頃、前世紀末に母校を巣立ち、高校で勤める私が、壮大な半生？を語ることになった。

学生の頃

奈良教育大学入学が八八年。昭和が幕を引こうとしていた年だ。教師になるなら、基礎を幅広く教える分野に進もうと思ひ、小学校理科を選んだ。充実した学生生活を送るため、クラブは弓道部に入部した。敢えて自慢するが、授業はほぼ出席した。勉強しないが、大学に行っているのが好きであった。出席オタクである。毎朝、八時半には登校していた。静かな教室に

一番乗りかと思うと、先着に鹿がいたり、スリリングであった。

これが功を奏し学内で多くの人と出会えた。さらにクラブで上下関係を経験。遠征試合で他大学との交流もあり、出会いにいとまがなかった。余談だが、クラブを通して、今の妻に出会った。先輩の叱咤激励、同輩との昼夜間わずの語り合い、時には激論も交わした。卒業論文は三辻先生のもとで研究先生から丁寧な指導していただいたり、ここでも先輩や同輩と語り、多くの意見に耳を傾けることができた。充実した四年間だった。

今は高校教師

小理専攻だが、副免で中学校高校理科を取得した。小学校教員採用試験に落ちた私は、一年間高校で講師をした。この時に先輩先生方から「高校を受験したら？」の一言で、専門色の強い高校化学の教師になった。試験勉強について語りたいが、割愛する。

就職に就いて戸惑いは多くあった。高校実習経験の無い私は、高校生への話しかけ方に迷ひ、授業では理科離れの現状や、実験がないことに驚いた。また、担任や、生徒と親の進路相談と裏方の作業の多さに驚いた。ある時三者面談で、目の前で親子ゲンカ。「まあ、まあ。」と言って止めることもあった。こんな大変な仕事に未だ対応でき

ていない。

そんな折、理科離れに危機感を持つ教師同士の勉強会に入ることになった。「青少年の科学の祭典」出展や旧動燃の科学館で実験したり、学校外の活動に参加できた。蒸気圧曲線の実験で富士山へ登山し、ついには天然ダイヤモンドを惜しみながら焼き、すべて映像に残した。生徒の興味を引く理科活動として自分の勉強とともに、学校へ還元している。

話し方を学ぶつもりで落語を聞きだしたが、ハマってしまい寄席に行く始末。鼠<sup>ひも</sup>は故桂枝雀。もう抱腹絶倒！でなく、まだ流暢に話せないのが残念。今後も多くの人に理科へ関心を持ってもらう



実験のため、富士登山

活動を続ける。高校や小学校の垣根を取っ払って活動しようと思う。

母校にいる後輩へ

みなさんがこれから求められるのは、「大学で何ができるようになったか」「今後、何がしたいか」



富士山頂、沸点89度!

の二点が大きいだろう。

我が大学は、単科大学である。専攻は多いが、学生の基本思想はほぼ同じ。そのため物事を熟慮しない甘さがある。研究やクラブを通し学外の他の人の考え方に耳を傾けよう。そして、自分に何ができるかを探し、教職に就いてほしい。またこの時代、教育大とは言え教職を目指す人ばかりではないだろう。自分にあった職を見つけ、実力を遺憾なく発揮しよう。

いずれにせよ、右記した二点を おさえ、個性を生かして我が道を大きく歩んでほしい。それが今後新世紀を歩む教育大の礎となる。みなさんの健闘を祈る。

追伸。神戸新聞日曜版「理科の部屋」のコーナーにグループで執筆中。インターネットでも公開しています。ご覧下さい。